

(参考)アレルギー性鼻炎に対するアレルギー免疫療法

当院では、「アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料」を算定する患者さんに、「免疫療法と舌下免疫療法の比較と治療法の選択についての説明は以下のとおり」医療法人〇〇会〇〇耳鼻咽喉科クリニック 院長 〇〇〇〇

項目	□皮下免疫療法SCIT
治療法について(□)印に該当する療法をチェック	アレルギー性鼻炎(含花粉症)は、アレルギー(または抗原)と呼ばれる原因物質(ダニ、スギ花粉など)によって引き起こされます。SCIT とはアレルギーの皮下注射を繰り返し行うことにより、根本的な体質改善を期待する方法です。その患者さんでアレルギーの原因となっているアレルギーのエキス(製剤)の注射をごく少量から開始し、少しずつ量を増やしていき、アレルギーが起きないように体を慣らしていく治療法です。
対象患者(原則)	5歳以上
治療の流れ	SCIT の具体的な方法としては、まず血液検査や皮内テストで、患者さんのアレルギーの原因(抗原)を確かめます。そのうえで、薄く希釈したエキスを少量から注射していきます。はじめは週1回、少しずつ量を多く、濃度を高くしていき、適当な濃度になったら間隔をあげ、2週に1回から最終的には月1回にして、その濃度(維持量)を続けていきます。効果がでるまでに約3カ月はかかります。効果を維持するために最低2年、できれば3年以上月1回の注射を続けます。なお、当院への通院が難しい場合や治療途中での転居の必要が生じた場合は、近くのアレルギー専門医療機関を紹介のうえ治療を続けることも可能です。
有効性	治療効果はダニで80~90%、スギ花粉でも70%前後の有効性が認められています。また、3年以上治療を続けられた患者さん(有効例)では、治療終了後4~5年経過した時点での追跡調査で80~90%の効果の持続が認められています。特にダニによるアレルギーに対するSCIT は、有効性、安全性ともに高く、1年を通じて明らかに症状のある患者さんには、積極的に勧めしています。飲み薬はあくまで一時的に症状を抑えるだけで、根本的な治療ではありません。長期にわたって薬を飲み続けるより、はるかに経済的(保険適用)でもあります。

安全性(副作用)	副作用としては注射部位の腫れが最も多く、そのほか全身の発赤、ショック症状、喘鳴などがごくまれに起こることがあります。ただし、これらの副作用の多くは注射後30分以内に起こるため病院での適切な処置により、すべて回復するものです。また妊娠に際しての有害事象の報告はなく、治療を続けることが可能です。
方法	医療機関に通院して、注射でスギ花粉エキスを投与します。
治療期間	維持量に到達し

アレルギー性鼻炎に対するアレルギー免疫療法について説明を受け、理解した。
 的な診療、お薬の管理、健康管理に関する相談・指導等を受けることに同意した。
 (患者氏名)

(編注)日本アレルギー学会アレルギー免疫療法の手引き(一般社団法人 日本アレルギー学会)を参考に作成した。

SLITについての説明と同意書(事例)

「かかりつけ医」として、次のような診療を行います。皮下免疫療法です。

□舌下免疫療法(SLIT)
アレルギー性鼻炎(含花粉症)は、アレルゲン(または抗原)と呼ばれる原因物質(ダニ、スギ花粉など)によって引き起こされます。SLITとは、その患者さんでアレルギーの原因となっているアレルゲンを少量から、徐々に量を増やし繰り返し投与することにより、体をアレルゲンに慣らし、症状を和らげる治療法です。根本的な体質改善(長期寛解・治癒)も期待されます。SLITは、アレルゲンを舌の下(舌下)に投与する治療法で、現在、スギ花粉症およびダニアレルギー性鼻炎に対して治療が行われています。
12歳以上
SLITの具体的な方法としては、まず、問診と血液検査または皮膚テストで、患者さんのアレルギーの原因(アレルゲン)を確かめます。気管支喘息や口腔内に傷や炎症のある方、他の疾患で治療を受けている方、妊婦・授乳婦の方などでは、SLITによる治療を受けられないことがあります。治療は、1日1回舌下に薬剤を投与します。投与後は1分間または2分間、あるいは完全に溶解するまで舌下に保持し、その後飲み込みます。投与後5分間はうがいや飲食を控えます。また、投与前および投与後2時間は入浴や飲酒・激しい運動を避けます。投与する薬剤(アレルゲン)の量は徐々に増量します(スギ花粉症なら1または2週間、ダニアレルギー性鼻炎なら3日から1週間など)。副作用への対応を考慮し、初回投与は医療機関内で行い、その後30分間は医師の監視下で待機します。翌日(2日目)からは、自宅で患者さん自身が投与しますが、日中や家族のいる場所での投与が推奨されます。治療期間は3~5年が推奨されます。また、投与を長期中断した後、再開する場合は、医師に相談する必要があります。なお、当院への通院が難しい場合や治療途中での転居の必要性が生じた場合は、近くのアレルギー専門医療機関を紹介のうえ治療を続けることも可能です。
一般的にSLITを含むアレルゲン免疫療法では、8割前後の患者さんで有効性が認められています。スギ花粉症およびダニアレルギー性鼻炎に対するSLITにおいても、種々の報告からその有効性・安全性が確認されています。また、飲み薬や点鼻薬、点眼薬はあくまで一時的に症状を抑えるだけで、根本的な治療ではありません。根本的な体質改善(長期寛解・治癒)を望む患者さんには、積極的に勧めしています。

副作用としては投与部位である口腔内の腫れ、痒みなどが最も多くみられます。特に、投与後少なくとも30分間、投与開始初期のおよそ1カ月などは注意が必要です。これらの副作用は投与後数時間で自然に回復することが多いですが、症状が長時間持続する場合は、医師に相談してください。また、アナフィラキシーなど重篤な症状が起こる可能性もあります。アナフィラキシーと考えられる症状が発現した際は、直ちに医療機関を受診するなど迅

初回は医療機関、2回目以降は自宅で舌の下にアレルギーエキスをたらしめます。

してから3～5年

上で、●●クリニック 医師 ○○○○を担当医として、継続します。

アレルギー学会2022年1月20日)などを参考に事務的に